

科目名	社会データ分析			ナンバリング	SOC241	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	菊池真弓	担当教員					

授業の概要	社会現象を解明する上で、必要な情報（データ）の収集とその適切な処理は不可欠の要件である。ここでは、社会学研究法としてのコンピュータを用いた情報処理の方法を身につけ、社会学研究をしていく上で必要な情報や統計の収集と分析の仕方を学ぶことを目標とする。また、単純集計、度数分布、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方と基本的なまとめ方、相関係数など基礎的統計概念も身につける。						
到達目標	1.情報の種類、量的データと質的データの相異、それらの情報処理について説明することができる。 2.主要な記述統計量（平均、分散、標準偏差）に基づき、データを整理・分析することができる。 3.基礎データに基づき、因果関係と相関関係について分析・考察を加えることができる。 4.記述統計データ、グラフなどを分析・考察し、それらをレポートとしてまとめることができる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な 予備知識など）	本授業は、社会調査士資格のC科目となるため、受講までに資格認定「社会調査の基礎」、「調査の設計と方法」を履修していることが望ましい。また、毎回パソコンを使ったワークと課題提出がある授業なので、出席はもちろん、授業内で実施する課題に積極的に取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.量的データと質的データの相異について説明することができる。 2.主要な記述統計量に基づき、データを整理することができる。 3.基礎データに基づき、因果関係と相関関係について説明することができる。 4.量的データ、グラフなどを作成し、それらをレポートとしてまとめることができる。	1.量的データと質的データの相異、それらの情報処理について説明することができる。 2.主要な記述統計量に基づき、データを整理・分析・考察することができる。 3.基礎データに基づき、因果関係と相関関係について説明・分析・考察することができる。 4.量的データに基づいたレポートをまとめ、分析・考察することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		70%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の質問や感想などについては、授業内または次回の授業でコメントする。 2.授業内課題、最終レポートについては、評価基準を示した上で、返却する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	授業の進め方を理解し、パソコンとインターネットの基本操作を行うことができる。	
	第2回	情報の種類と処理の基本(1)	情報の種類、量的データと質的データの相異、それらの情報処理について説明できる。	
	第3回	情報の種類と処理の基本(2)	各種図書館資料の利用法とそれらの情報収集、情報リテラシーについて説明できる。	
	第4回	情報の種類と処理の基本(3)	国内の各種データベースの活用、それらの情報収集と処理方法について説明できる。	
	第5回	応用演習(1)	図書館資料やデータベースを実際に活用することができる。	
	第6回	エクセルの基本	エクセル関数の基礎、グラフの作成について理解し、基本的な操作を行うことができる。	
	第7回	データの整理と分析の仕方(1)	記述統計データの作成技法に基づき、データを整理・分析することができる。	
	第8回	データの整理と分析の仕方(2)	主要な記述統計量(平均、分散、標準偏差)に基づき、データを整理・分析することができる。	
	第9回	データの整理と分析の仕方(3)	基礎データに基づき、因果関係と相関関係について分析・考察を加えることができる。	
	第10回	各種統計の読み方(1)	白書、統計書の活用、記述統計データ、グラフなどを分析・考察し、それらをレポートとしてまとめることができる。	
	第11回	各種統計の読み方(2)	人口統計、世帯統計、労働統計などを分析・考察し、それらをレポートとしてまとめることができる。	
	第12回	各種統計の読み方(3)	産業統計、企業統計、経済統計などを分析・考察し、それらをレポートとしてまとめることができる。	
	第13回	各種統計の読み方(4)	家計統計、生活と福祉の統計などを分析・考察し、それらをレポートとしてまとめることができる。	
	第14回	応用演習(2)	統計量を理解し、データ入力・加工して、応用することができる。	
	第15回	全体のまとめ	社会データ分析の総括を行い、演習内容についての理解度を確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		量的データの特徴や諸技法については、配布プリントに従って授業を進める。また、毎回、excel、word、インターネットを活用した課題レポートの提出する。なお、試験は実施せず、応用演習および最終課題レポートを提出してもらう。		
授業外学習の指示		【予習】配布資料を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。 【復習】返却した前回課題、配布プリントを復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	テキストは使用しない。随時、プリントを配布する(manab@IMUにも公開)。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	適宜、授業内で紹介する。
その他	e-ポートフォリオ「manab@IMU」を利用して、レポート課題の提出を行ってもらいます。